

研修用 DVD「模擬熟議」 利用の手引き

1 熟議とは

よりよい集団(学校)生活や人間関係を築くために、「協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を「話し合い」を重ねながら生み出そうというもの。

(引用元:文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 『学校運営協議会』設置の手引き
コミュニティ・スクールのつくり方」 p.11 より)

熟議とは、「熟慮」と「議論」という2つの言葉が組み合わされてできた言葉です。いろいろなことを考えに入れて念入りに検討しながら、相手の考えをよく聴き自分の考えを述べることです。

地域や学校がたくさんの課題を抱えている今、「子供たちをどんな大人に育てたいのか?」、「学校と地域が連携する目的は?」といったことについて、教職員や保護者、地域住民など、学校や地域で子供に関わる多くの当事者がしっかり考え、しっかり話し合うことが重要です。

2 熟議のプロセス

「熟議」のプロセス

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる



(引用元:文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 『学校運営協議会』設置の手引き
コミュニティ・スクールのつくり方」 p.11 より)

①～⑤のプロセスを経ることによって、子供たちや学校、地域の現状、また、これからの学校づくり、地域づくりに向けた目標やビジョンを共有することができます。そして、学校や地域の多様な当事者が、具体的な行動へつなげていくことができます。

3 なぜ熟議が必要なのか

学校づくりや地域づくりを進める上で熟議を行うメリットとして、以下の①～③が挙げられます。

①学校や地域の多様な当事者がお互いをよく知ることができる

学校と地域、また、地域住民同士で、子供たちや学校、地域に関することについて、お互いによく知らないままでは、いくら会議を重ねても納得し合うのは非常に難しいことです。

そこで、学校、地域、そして地域住民同士が「そもそも学校や地域についてどう考えているのか」、「そもそもお互いにどんな人なのか」ということについてよく知る必要があります。しかし、熟議を重ねることを通して、お互いをよく知るすることができます。

②「納得できる」目標を立てたり、目標へと向かう道筋を共有したりすることができる

熟議を通じて、お互いの考え方の共通点やズレ、重なり合う部分を明らかにし、共有することが学校づくりや地域づくりに関わる人の関係づくりにつながります。そして、熟議を重ねることを通して、学校も地域、地域住民同士が「納得できる」目標を立てたり、目標へと向かう道筋を共有したりすることができます。

③「自分たちが何とかしなければならない」という当事者意識が育まれる

熟議を通して明らかになった学校、地域の共通の願いを具現化していく道筋を全員で模索していくことで、「自分たちが何とかしなければならない」という当事者意識が育まれます。

